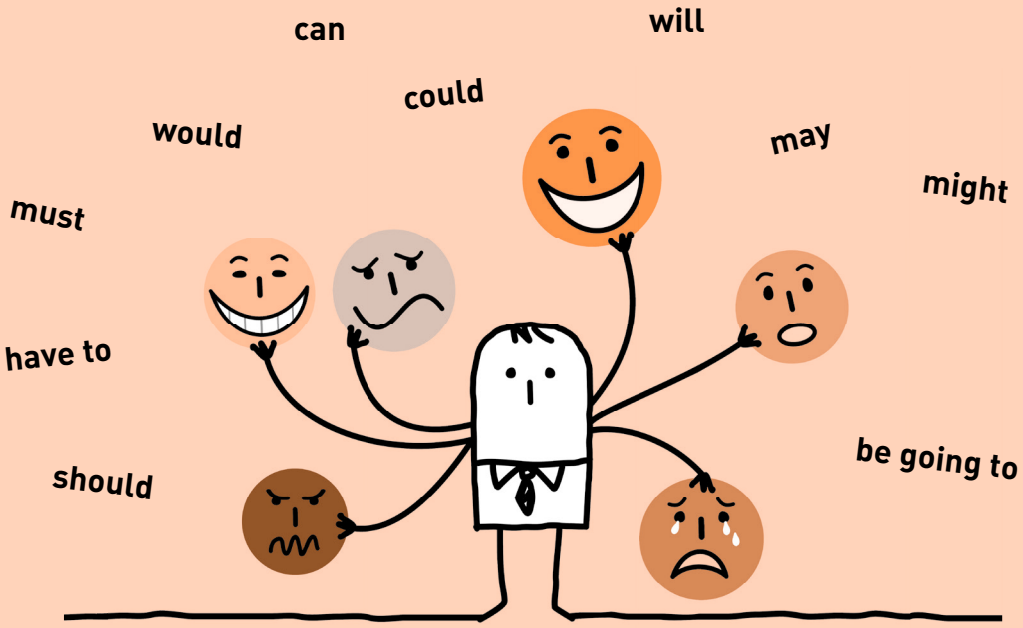
文法のつまずきポイント

特集

could と might はどう違う？

難敵「助動詞」を使いこなす！



各助動詞の基本的な意味は把握していても、婉曲用法としての過去形would、could、mightや、be able toなど助動詞的なフレーズも加わると、それぞれに微妙なニュアンスや使い方があるため、思わぬ落とし穴にはまってしまうことがある。英語学習者にとって、助動詞を適切に使い分けるのは難問の一つだ。
そこで今回は、ぜひ押さえておきたい「助動詞の勘所」を、クイズ形式で確認していこう。注意すべき「助動詞の意外な意味・用法」や、知らないと理解しにくい「助動詞を含む慣用的な言い回し」も取り上げたので、それらの使い方にも併せて慣れておきたい。
助動詞を自在に使いこなすことができれば、「微妙な気持ち」や「相手への意図」を的確に英語で表現できるようになり、コミュニケーションをスムーズかつ有利に進めることができるようになるはずだ。 **執筆：EE編集部**

各問題についている✎マークは「難易度」の目安です
✎：普通　✎✎：やや難しめ　✎✎✎：難しめ

PART 1 「助動詞の使い分け」に関するクイズ

助動詞は、さまざまな「ニュアンス」を伝える役割を担っている。一見、同じ意味に見える助動詞でも、ニュアンスに大きな違いがある場合もあるので、十分注意しよう。

＊CD収録の音声では、正解の語句で読んでいます。

Q1 33

空所に入れるのに適切な方を選びなさい。

I（**was able to / could**）get a master's degree, which made all the effort worthwhile.

努力のかいあって、修士号を取得できた。

解答 was able to

解説「…することができた」という意味を表すwas［were］able toとcouldの違いは、正しく理解しておく必要がある。

「修士号を取得した」というのは「**過去の1回限りの実現**」であり、この場合は**was**［**were**］**able to**を使うのが適切。1回限りの実現に対してcouldを用いると仮定法として解釈されるため、例えばI could get a master's degree.は「**取ろうと思えば修士号を取れる**」という意味になる。

In my 20s, I could sleep for as long as I wanted on my days off.（20代の頃は、休日は何時間でも寝ていられたものだ）のように、「過去を表す語句」（ここではIn my 20s）があり、「**過去の継続的な習慣や能力**」を表す場合には、「…することができた」という意味でcouldを用いることが可能だ。

Q2

空所に入れるのに適切な方を選びなさい。

It（**can / could**）rain tonight, so you'd better take an umbrella with you.

今夜は雨になるかもしれないから、傘を持っていった方がいいよ。

解答 could

解説 canとcouldは、どちらも「可能性」を表すために用いられるが、**can**は「**人や物の性質**」**に関する**「（**理論上の**）**可能性**」について用いる。Jodi can be really annoying.（ジョディはひどくうっとうしいことがある）やIt can rain for a week straight during the wet season.（梅雨どきは、1週間ぶっ続けで雨が降ることもある）などのように、「既に知られている状況や事実などから判断して、理論的にありうる」という場合に用いられる。

しかし、「（特に根拠はないが）雨が降るかもしれない」など、「**現実に関する単なる予想**」に関してはcanを使うことはできない。こちらの意味では、**could**のほか、**may**や**might**を用いることもできる。

Q3

1と2の意味の違いを説明しなさい。

1. Can you come to work this Sunday?

2. Could you come to work this Sunday?

解答 **1**は「来られるかどうか」を尋ねる文と、「来てほしい」と依頼する文のどちらにもなるが、**2**は依頼の意味しかない。したがって、訳は以下になる。

1. 今度の日曜日は出社できますか。／今度の日曜日に出社してもらえる？

2. 今度の日曜日、出社していただけますか。

解説 依頼するとき、現在形のCan you...?もカジュアルな依頼の表現として使用可能である。しかし、canのもともとの意味が「～することができる」ということから、Can you hear me?（聞こえますか）のように、単に「できるかどうか」を問う質問として使われることも多い。

そのため、確実に「依頼」をしたい場合は、Could you...?というパターンを用いた方が無難である。そして、**助動詞の過去形を使った疑問文**は仮定法になるため、現在形の場合よりも、一般に**婉曲的で**「**丁寧**」**な響き**を伴う傾向がある。Could you...?も、丁寧な依頼の表現である。

Q4

空所に入れるのに適切な方を選びなさい。

A: Do you have to be so blunt?

B: Well, I admit I（**could / might**）**have** gone too far.

A: 何もそこまで言うことはないでしょう？

B: そうですね、言いすぎたかもしれません。

解答 might

解説〈助動詞＋完了形〉のパターンに慣れておこう。特に〈**助動詞の過去形＋完了形**〉の場合は、**仮定法**になるため、複雑なニュアンスが込められている。〈could have過去分詞〉は、She could have drowned.（彼女はあやうく溺れるところだった）（≒She nearly drowned.）のように、「**…しそうだったが、しなかった**」「**…できたのに、しなかった**」という意味になる。

これに対して、〈might have過去分詞〉は「**…だったかもしれない**」という意味。I might have gone too far.で、「行きす

ぎたかもしれない」→「言いすぎた（やりすぎた）かもしれない」という、自分の非を認めるひと言になる。I could have gone too far. では「言いすぎてしまいそうだったが、なんとかこらえた」という意味になってしまう。

Q5

34

空所に入れるのに適切な方を選びなさい。

A: This is the end of the test. You（**may/might**）go now.

B: Thank you, sir.

A: これで試験は終わりです。退出して結構です。

B: ありがとうございます。

解答 may

解説 You might... には「許可」の意味がなく、基本的には「**…するかもしれない**」という「推量」の意味にしかならない。したがって、「許可」にはmayを使う必要がある。You may go home early tonight.（今夜は早く帰って構いません）。ちなみに、You may go now. は、英検の面接テストの最後に面接官が受験者に退室を指示する表現としても使われている。

なお、You may... を使った「許可」表現はややかしこまった感じがするので、**You can...** を使って同様の意味を表すことも多い。

Q6

空所に入れるのに適切な方を選びなさい。

A: **You**（**may/might**）post this on your way home.

B: No problem.

A: 帰りに、これを投函してもらえませんか。

B: いいですよ。

解答 might

解説 You may... / You might... は、どちらも「…するかもしれない」という「推量」の意味があるが、状況によっては、それとは異なる意味になることに注意。

前項でも述べたように、mightには「許可」の用法はない。その代わり、上のダイアローグ例のように、You might... の形で「**よかったら…してくれませんか**」という「**依頼**」「**軽い命令**」の意味がある。might は仮定法で、ここでは You might...if you wanted to.（もしそうしたかったら…してくれてもいいんですよ）という、**控えめな依頼**のニュアンスを表している。

Q7

空所に入れるのに適切な方を選びなさい。

A: Why don't we go to see a movie this afternoon?

B: Sounds great.（**I'm going to / I'll**）see you at the station at 3:00 then.

A: 今日の午後、映画を見に行かない？

B: いいね。じゃあ、駅で3時に待ち合わせしよう。

解答 I'll

解説 未来のことについて言及する際に用いられるwillとbe going toは、ほぼ同じように使える場合もあるが、ニュアンスや用法に違いがあるケースも多い。予定に関して述べる場合、**be going to**を用いると「**前から決めていた**」というニュアンスを伴うことがある。このダイアローグのように、「**その場で予定を決めた**」という場合には**will**を使うのが適切。

Q8

どちらが自然な英文か答えなさい。

1. She**'s going to** have a baby in August.

2. She**'ll** have a baby in August.

彼女は8月に出産予定です。

解答 1

解説 Q7で説明したように、「**すでに決まっている予定**」に言及する際には**be going to**を使うのが適切。「**妊娠していて、出産予定日が決まっている**」という状況なので、単なる予測であるwillを使うと不自然なのだ。

なお、ほぼ同じ意味を、She's having a baby in August. のように**現在進行形**を使って表すこともできる。

Q9

空所に入れるのに適切な方を選びなさい。

We（**were going to / would**）visit France, but we changed our plans at the last minute.

私たちはフランスに行く予定でしたが、ギリギリになって計画を変更しました。

解答 were going to

解説 **would**はwill（…するつもりだ）の過去形ではあるが、「**…するつもりだった**」**という意味では用いられない**ことに注意しよう。

「…するつもりだった」という意味を表すには、be going toの過去形を使って表す。なお、**was**［**were**］**going to**は、「**…するつもりだったのに、しなかった**」というニュアンスを伴うことが多い。例えば、I was going to go to the park.